

1. アサリ冬季減耗対策試験（被覆網試験）内容および経過報告

1) 目的

三番瀬海域で問題となっているアサリ冬季減耗対策として、漁業者が実践可能な方法による被覆網アサリ保護管理技術を確立する。

2) 内容（全体計画：平成22～24年度及び平成23年度計画）

H22：被覆網設置方法の検討（付着防止剤の効果、設置方法を実施）

H23：被覆網設置適地の検討

H24：被覆網による保護実証試験（対照区画、被覆網区画設置）

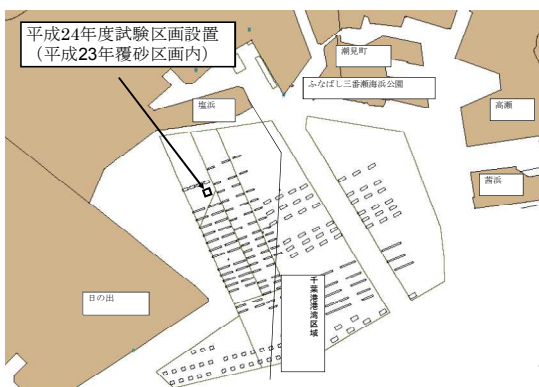


図1 試験設置場所（平成23年覆砂区画内）
※干潮時水深：0.5m前後

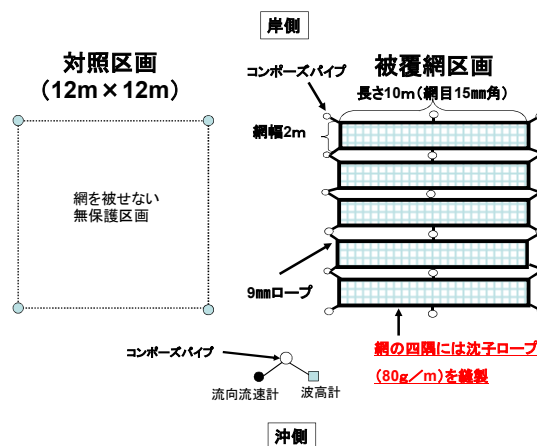


図2 被覆網、対照区画上面図

●アサリ放流、被覆網区画設置、放流アサリ追跡調査、波高計等設置等

11月3日：三番瀬漁場から採取したアサリを被覆網区画、対照区画に放流した後、被覆網区画に網を設置。対照区画は網を被せない無保護区画とした。また、波浪や鳥類等の捕食に対して保護効果が見込める網袋（縦×横約50cm、目合5mm）にカキ殻粉末加工粒（直径8mm程度）と軽石（直径10mm前後）混ぜ、アサリ30個収容した後、網の上部を縛って巾着袋にしたもの2つを対照区画のパイプにロープで結び付け、海底面上に設置。

12月以降：原則的に1か月に1回の間隔で波高計、流速計の設置とメンテナンスを行い、放流アサリの追跡調査（枠取り調査）と網袋内の生存アサリ数の確認を実施。

3) 経過（1月17日現在のアサリ残留率）

- ・対照区：放流後の生息密度から算出した12月の残留率（殻長15mm以上）は7%と大幅に減少し、1月には4%に減少しました。
- ・被覆網区：放流後の生息密度から算出した1月の残留率（殻長15mm以上）は43%であり、保護効果が見られています。
- ・網袋：2つの網袋の平均残留率は95%であり、残留率は被覆網よりも高い状況です。

アサリ冬季減耗防止に被覆網の効果が見られており、網袋はさらに効果が見られている。

2. 貝類資源調査結果（平成 24 年 12 月現在）

- 平成 24 年 12 月のアサリ分布密度は 11 個/m²（全点平均）であり、過去 5 か年で最も少ない状況です（図 4）。大きさの主体は殻長 16 mm 以下の稚貝です。
- 平成 24 年 12 月のホンビノスガイ分布密度は 24 個/m²（全点平均）であり、アサリよりも多い状況です。大きさの主体は殻長 11~16 mm の稚貝です。

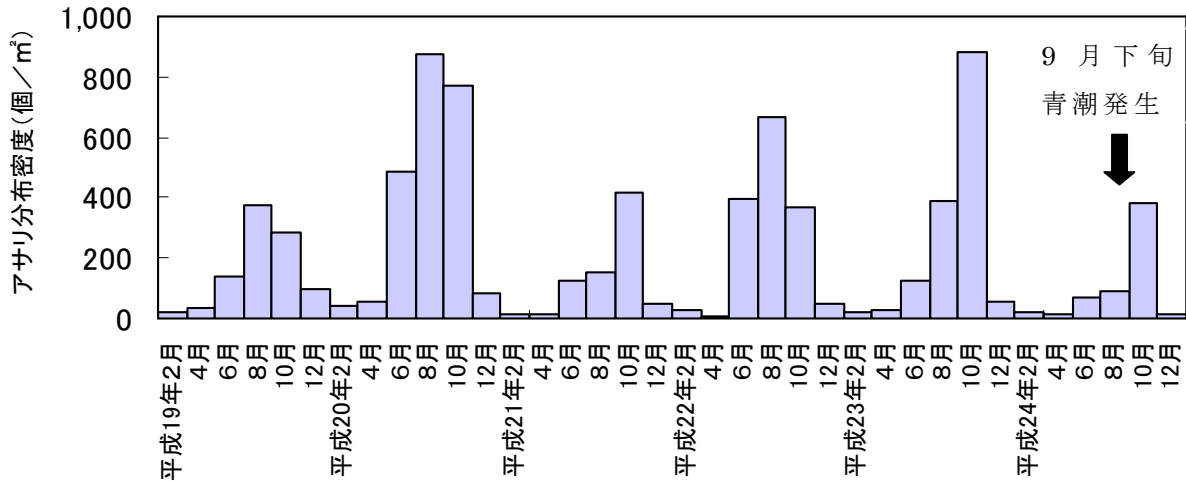


図 4 アサリ分布密度の推移

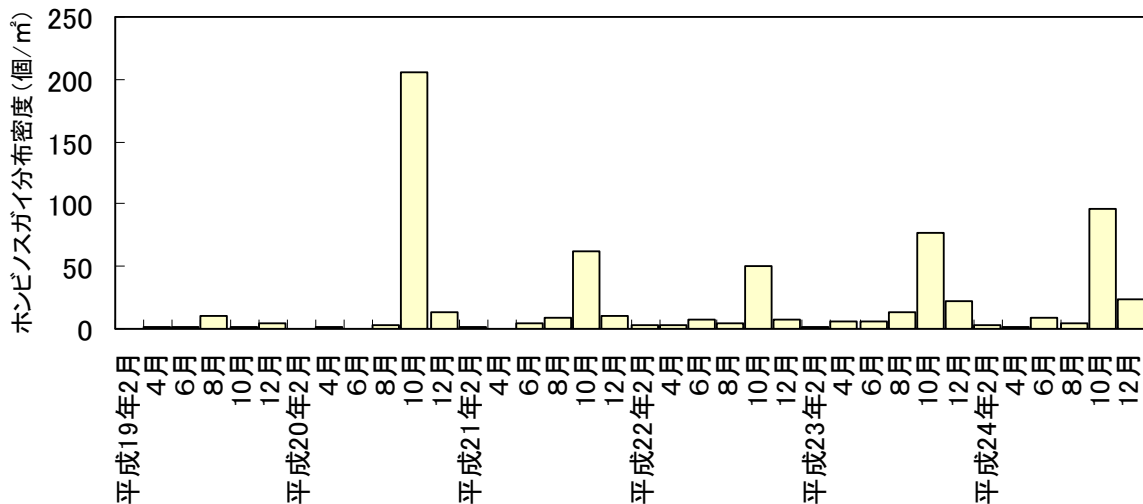


図 5 ホンビノスガイ分布密度の推移

アサリ資源は少なく、さらに青潮の影響により資源の減少が見られた場所もあったが、ホンビノスガイ資源は前年並み